

名詞

<教科書の内容>

名詞とは：

人やものの名前を表す語。

名詞の種類：

数えられるもの[可算名詞]と、数えられない名詞[不可算名詞]があるよ。

1. 数えられるもの[可算名詞]

(1) 単数形と複数形

1つの場合は単数形といい、名詞の前に冠詞の a (母音で始まる名詞の場合は a n) をつけます。

2つ以上の場合は複数形になり、名詞に s または e s をつけます。

例：

[単数形] a p e n c i l , a n a p p l e

[複数形] t h r e e p e n c i l s t h r e e a p p l e s

(2) 可算名詞の複数形の作り方のルール (詳細は次頁)

	単数形	複数形
複数形で「s」または「e s」がつくもの	a b o l l a b o x a b u s a p a r t y	b a l l s b o x e s b u s e s p a r t i e s
複数形で不規則に変化するもの	a c h i l d a m a n a t o o t h など	c h i l d r e n m e n t e e t h
単数形と複数形が同じ形のもの	a s h e e p a f i s h など	s h e e p f i s h

2. 数えられない名詞[不可算名詞]

素材や物質など一定の形を持たないものや、目に見えない抽象的なものなどは数えられません。

この場合、基本的には a (a n) がついたり、 s で終わるかたちになったりはしません。

[量を考えない場合] w a t e r、 m e a t、 m u s i c

[量を考える場合]

単数 : a c u p o f w a t e r

複数 : t w o c u p s o f w a t e r

s o m e (いくらかの量)

(1) 不可算名詞の種類

一定の形を持たないもの	w a t e r、 s a l t、 m e a t、 j a m、 m i l k、 s o u p など
目に見えないもの	m a t h、 a i r、 i n f o r m a t i o n、 h a p p i n e s s、 k i n d n e s s、 l o v e など
人や場所、スポーツなど	S a l l y、 T o k y o、 t e n n i s など

以上が教科書の内容だよん。

つぎに、教科書の内容に以下の補足をするよ。

●可算名詞の複数形の作り方<主な規則>

1. 規則変化
 - ・規則変化する複数形の発音
2. 不規則変化をする複数形

●「可算名詞」、「不可算名詞」のイメージ・アップ

●可算名詞の複数形の作り方<主な規則>

1. 規則変化

(1) 原則 名詞を複数形にするには、語尾に-sをつける。

(2) 語尾が-s, -x, -sh, -ch で終わる語を複数形にするには、語尾に-esをつける。

- class→classes (クラス)
- box→boxes (箱)
- dish→dishes (皿)
- match→matches (試合)

(3) 語尾が-z で終わる場合は、-zを重ねて、そこに-esをつける。

- quiz→quizzes (クイズ)

(4) 「子音字+y」で終わる語を複数形にするには、yをiに変えて-esをつける。

- country→countries (国)
- lady→ladies (女性)

(5) 「子音字+o」で終わる語を複数形にするには、通例、語尾に-esをつける。

- hero→heroes (英雄)
- potato→potatoes (じゃがいも)

(6) 語尾が-f/-fe で終わる語を複数形にする場合、
通例、-f/-fe を-ves に変える。

- leaf→leaves (葉)

knife→knives (ナイフ)

規則変化する複数形の発音

規則変化する複数形の発音は、pens のような[z(ズ)]、maps のような[s(ス)]、
dishes のような[əz (イズ)]のいずれかになる。

2. 不規則変化する複数形

可算名詞の中には、-s/-es 以外の複数形を取るものがある。これを**不規則変化**
と呼ぶ。

(1) 変母音複数

いくつかの名詞は、母音の変化によって複数形をつくる。

- man→men (男性)
- woman→women (女性)
- foot→feet (足)
- tooth→teeth (歯)
- goose→geese (ガチョウ)
- mouse→mice (ネズミ)
- louse→lice (シラミ)

(2) -en や-ren のつく複数形

いくつかの名詞は、語尾に-en や-ren をつけて複数形をつくる。

- ox→oxen (雄牛)
- child→children (子供)

(3) 単複同形の複数形

単数形と複数形で形が変わらないものがある。これを**単複同形**と言う。

単複同形の代表例は、群れをなす動物や魚である。

- deer→deer (シカ)
- fish→fish (魚)
- salmon→salmon (鮭)
- sheep→sheep (ヒツジ)

● 「可算名詞」、「不可算名詞」のイメージ・アップ

ここからは、教科書から少し脱線して、教科書が文字で説明している内容をイメージできるように、説明を加えてみるよ。

なぜ、こんな内容を追加するかというと、じいも「可算」「不可算」の切り分けルールがしっくり、納得できていないから調べてみたんだよ。
その結果をこれから説明するね。

教科書の内容の方がわかりやすければ、この内容は無視していいからね。

名詞の種類	
形の仲間 [可算名詞]	<ul style="list-style-type: none"> ・「その形がまるごとひとつ」完全にそろっていないと、それだと認識できないもの。 ・「1つ」の素になる決まった形がある。 <p>例： 机（細かくしたら、机とわからなくなる。 木材になる）</p>
材質・性質の仲間 [不可算名詞]	<ul style="list-style-type: none"> ・「形が崩れても」それはそれと認識できるもの。 ・「1つ」の素になる決まった形がない。 <p>例： 氷（細かくしても、氷とわかる） チョコレート（砕いても、チョコレートとわかる）</p>

英語の世界で1 (one) は、「形がまるごとひとつ」そろっていることを意味するそうだよ。

そして、「形がまるごとひとつ」そろっていることを意味する言葉が「a」であり「an」だよん。

つぎの例がよく説明に使われているよ。

I saw a chicken running around in the yard. [可算名詞として使われた例]
鶏が1羽、庭を走り回っているのを見かけた。

I ate chicken yesterday. [不可算名詞として使われた例]

私は昨日、鶏肉を食べた。

これを

I ate a chicken yesterday. としてしまうと、

生きた鶏を頭からしっぽまで1羽、丸かじりしているイメージになっちゃうよ。

上の例でわかるように、「chicken」という言葉が「可算」にも「不可算」としても使われるので、教科書のように例をあげるリスト方式だけだと覚えるのが大変な気がする。

少しくだいけど、これからたびたびできくるから説明したいのだけど
言葉を説明する時に

たとえば、「乗り物」とは何かを説明するときに、

乗り物とは、人を乗せて移動するもの。

馬車、駕籠、汽車、電車、自動車、船、飛行機、人力車 等々の総称。

と説明してくれるとわかりやすいよね。

前半の「人を乗せて移動する」の部分は、乗り物ということばが指し示すものが共通して持っている性質を説明しているよ。(内包的定義：ないほう)

そして、後半の「馬車、駕籠、汽車、電車、自動車、船、飛行機、人力車 等々」の部分は、「乗り物」ということばで指し示される具体的な対象の範囲を説明しているよ。(外延的定義：がいえん)

教科書は外延部分の説明で終わっているから、内包の部分をつけ加えてみたよ。

「-s」、「-es」複数形の意味

「s」「es」をつけるのは「数」が増えることをイメージする。

可算名詞	「数」が増える
不可算名詞	「数」ではなく、巨大化

可算名詞に「s」や「es」をつけて複数計にするイメージは「数」が増えるイメージだよ。

「s」「es」をつけない可算名詞もあるよと突っ込みをいれないでね。

「s」「es」をつけない可算名詞も複数のイメージは「数」が増えることだよ。

一方、不可算名詞の複数(?)のイメージは、「数」が増えるのではなく、ある塊が「巨大化」するイメージだそうだ。

たとえば、川の水かさが増す場合、「数」が増えるのではなく、水の塊が巨大化するイメージだそうだ。

このように「数」が増減するイメージではないので、「不可算名詞」には「s」や「es」をつけないのだそうだ。